

# 第三十三回 千字文大会 毛筆課題

幼・小二年 石橋應和先生書



小二年 石橋鯉城先生書



小三年 石橋鯉城先生書



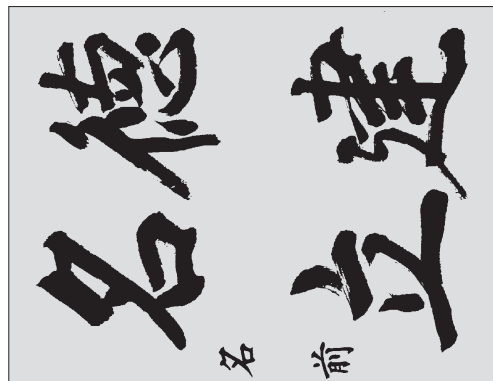
小四年 伊藤泉鶴先生書



小五年 長谷川白楊先生書



小六年 石橋鯉城先生書



中 学 吉田萩峰先生書



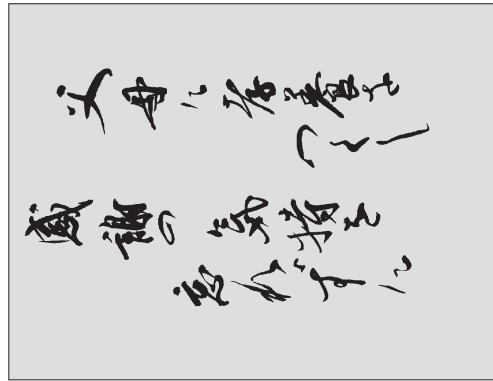
高校漢字半紙 小林鳴竹先生書



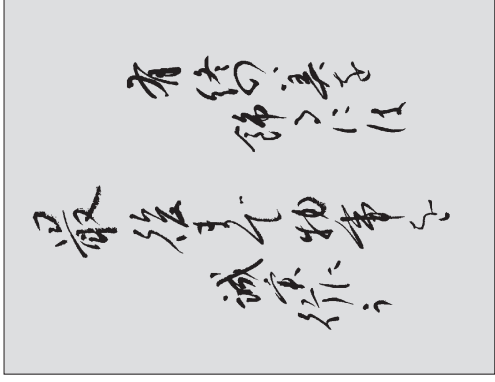
一般漢字半紙 赤井經忠先生書



高校新和様半紙 佐藤平泉先生書



一般新和様半紙 岡晴雲先生書



一般一字書 石橋鯉城先生書



高校漢字条幅

小久保嶺石先生書



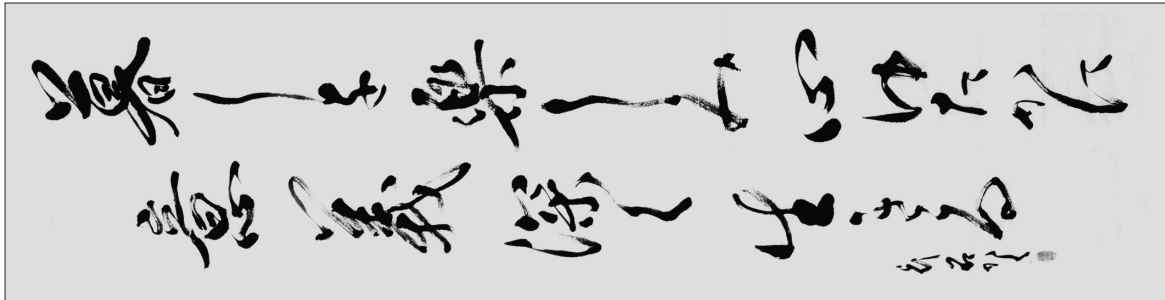
一般漢字条幅

池田龍仙先生書



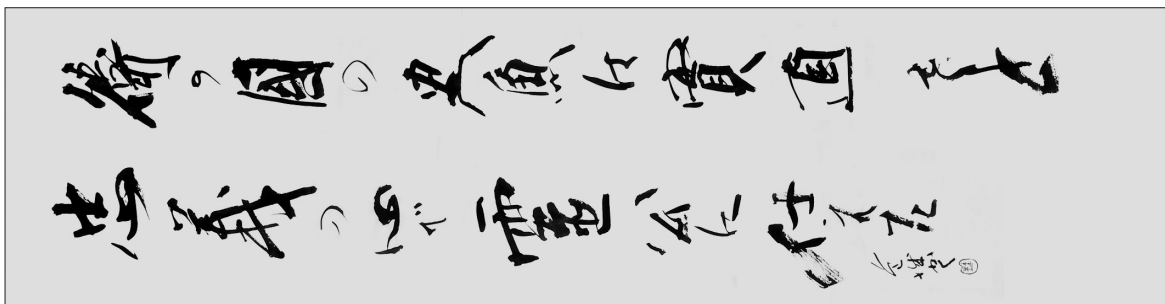
高校新和様条幅

小久保嶺石先生書



一般新和様条幅

石橋鯉城先生書



# 第三十三回 千字文大会 硬筆課題

幼・小二年 中島仙舟先生書

し せ い を  
た だ す

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

小二年 田中真親子先生書

き せ つ は  
め ぐ る

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

小三年 小野寺観洲先生書

東 西 二 京  
東 と 西 の  
大 き な 都

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

小四年 森 幽翠先生書

知 過 必 改  
過 ち に 気 づ い た ら  
必 ず 改 め る

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

小五年 福原深春先生書

男 効 才 良  
人 は 才 能 を 求 め て  
正 し い 道 を 行 く

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

小六年 船橋玉苑先生書

言 辞 安 定  
言 葉 に 責 任 を 持 ち  
実 行 に 移 す

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

中 学 大谷瑞峰先生書

性 静 情 逸  
感 情 を 抑 え て  
心 お だ や か に 過 す

支 部 名					
段	①	2	3	4	⑤
氏 名 職					
級					

高校(楷書) 堀津節子先生書

杜	臬	鍾	隸	漆	書	壁	經
府	羅	將	相	路	俠	槐	卿
戶	封	八	縣	家	給	千	兵
高	冠	陪	輦	驅	轂	振	纓
世	祿	侈	富	車	駕	肥	輕
策	功	茂	實	勒	碑	刻	銘
支 部 名							
段	①	2	3	4	⑤		
氏 名 職							
級							

# 平成24年度 学生募集!

文部科学省通達で、  
専修学校卒業生に、専門士の称号を授与  
指導者として時代にふさわしい実力を身につける

- \* 新時代を拓く学・芸・道三位一体の指導者を育成
- \* 専門士・書道師範・書術士(賞状揮毫)・1級インストラクター・  
教員資格取得をめざす
- \* 社会人入学(生涯学習・回帰学習)に門戸を開く
- \* 多様な教科・多彩な教授陣・コース制導入・少人数制教育
- \* 自然の恵み豊かなキャンパス・充実した最新の施設
- \* 資料請求は下記までお問い合わせ下さい。

## —— 公開講座『千字文を書こう』のご案内 ——

千字文大会開催にあたり無料公開講座を実施します。  
皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成23年6月15日(水) 午後1時～午後4時  
会場：日本書道芸術専門学校  
お申込・お問い合わせ：日本書道芸術専門学校 公開講座係

	学校法人 扶桑学園	創設者 石橋静水 理事長 石橋桂一 校長 石橋節子
	<b>日本書道芸術専門学校</b>	
〒414-0051 静岡県伊東市吉田1022		☎0557(45)4194 FAX0557(45)3256

<http://www.nihonshodou.ac.jp>

## 一般

佐藤友理先生書

梁	杳	的	歴	園	莽	抽	條
杳	杷	咈	累	椹	桐	子	凋
陈	根	委	驩	苕	藥	孰	孰
逝	踏	福	運	凌	摩	降	膏
馳	讀	駭	市	宥	目	襄	第
易	楫	攸	畏	屈	毋	垣	墻
县	信	餐	飯	道	口	充	飭
飽	餅	烹	宰	飢	然	糖	糠
親	戚	友	舊	老	少	貧	穉
妾	御	孺	幼	估	巾	帷	历
孤	解	園	潜	銀	燭	緯	煌

氏 石

## 高校(行書)

堀津節子先生書

杜	稟	鍾	赫	漆	書	壁	经
府	羅	将	相	路	侠	槐	卿
戸	封	八	縣	家	恰	千	兵
高	冠	陪	輦	驅	穀	振	纓
世	祿	侈	富	車	駕	肥	輕
策	功	茂	實	勒	碑	刻	銘

## □千字文の意義□

最近、新しい書道を唱導する人々の中には、往々にして文字性を否定し、造形的技法の一面のみ偏習して事たれりとする傾向が少なくない。その結果、書道盛んにして書道減ぶ、の嘆を免せざるを得なくなった。

そもそも書道は、文字の習得に伴って発達した一つの造型芸術であって、中国では四世紀の中ごろ、一つの美術として尊重されるようになった。六世紀頃に大陸から半島を経て、最初にわが国に伝えられたと言われている文献に、論語と千字文があげられる。この千字文こそ、わが国に書道を定着せしめた最初の重要文献である。

爾来、千字文と論語は、わが国民の教養に大きな影響をもたらした。とりわけ千字文は、漢字の学習と書技の上達に大きな役割を果たしてきた。

今日、多くの学書者は千字文を忘れていているが、半世紀前までの書道学習は、千字文に負うところが少なくない。けだし千字文は、四言の詩句二百五十句に一字の重複もなく、自然と人生を包含する美しい詩情は、一つの文学としても価値が高い。その七割以上の文字が今日の当用漢字と一致することを思えば、今日もなお、生きた教科書と言ってよい。もし千字文の三体に習熟するならば、われわれの日常の書写に事欠かぬばかりでなく、趣味としての芸術的表現においても、その字体の變化においてもほとんど不自由を感じないであろう。

〈厘水翁語る〉

歴代書家の代表的な千字文

中国：①智永 真草千字文 ②欧陽詢 草書千字文 ③褚遂良 楷書千字文 ④孫過庭 草書千字文 ⑤懷素 小草書千字文(千金帖) ⑥趙子昂 行書千字文 ⑦鮮于樞 草書千字文

日本：①池大雅 楷書千字文 ②日下部鳴鶴 楷・行・草千字文 ③西川春洞 楷・草千字文 ④小野鷲亭千字文

⑤厘水千字文(楷・行・草)各二四二七句  
※書籍のご注文は三多軒にて承ります。